

令和 8 年 8 月千葉豪雨 市民活動団体の皆さまへ

【被害状況】

令和 8 年 8 月 13 日から 14 日にかけて千葉県を襲った記録的な豪雨は、千葉市で観測史上最大となる 24 時間 367 ミリの降水量を記録し、県内の広い範囲に住宅の浸水・土砂災害をもたらしました。9 月 3 日時点で死者 13 人、被害住宅は 6,220 棟にのぼっています。

私たち災害支援ネットワークちば（CVOAD）は、2019 年の令和元年房総半島台風で千葉県が甚大な被害を受けた経験から設立され、以来、行政・社会福祉協議会・専門団体をつなぐ役割を担ってきました。今回の豪雨でも発災直後から現地に入り、状況の把握と支援の調整にあたっています。

被害の特徴は、同じ通り沿いでも片側は深刻な浸水、反対側はほとんど無被害という「まだら状」の広がり方にあることです。受けられる支援の内容が世帯ごとに異なるため、これまで同じ地域で暮らしてきた住民同士に、静かな分断が生まれかねない状況も見えてきています。

【被災地で伺った声（一例）】

- 「表面上はきれいに拭いても、床下には少し泥も含めた水も溜まっている。夫婦 2 人とも高齢で、作業が大変。誰に頼めばいいかもわからない」
- 「家財が全損し床下改修に数百万円かかる見込みだが、見舞金だけでは到底足りない。今後どういうサービスを受けられるのだろうか」
- 「制度の条件が複雑で、どこまでの修理が対象になるのか、どの業者に頼めばいいのかわからない。見慣れない人たちもいて不安」
- 「隣は高齢独居だったが、あまり顔を見せない。大丈夫なのだろうか」
- 「このままだと町から人が減っていくのではないか。また寂しくなる」

裏山の土砂崩れに巻き込まれたある高齢夫婦の世帯を訪ねた際には、電気が通っているのは居間だけ、使える水道も 1 系統のみという状態でした。キッチンが使えず、毎日コンビニ弁当で過ごしているという世帯もあります。

【これから求められること】

住宅の片付け・清掃といった「復旧」のフェーズは年内を目途に進んでいくと見られますが、生活再建という「復興」のフェーズは、その先も長く続きます。復興期に入ると、家の片付け以上に、被災者の心を癒し、地域のつながりを取り戻していく取り組みが重要になってきます。

こうした課題の多くは、災害によって新しく生まれたものではなく、高齢者の孤立や地域の担い手不足など、平時から地域が向き合ってきた課題が、災害によって一気に表

面化したものです。だからこそ、防災や災害支援を専門としない皆さまが、日頃から積み重ねてこられた地域への取り組みをこそ發揮していただきたい場面でもあります。私たち CVOAD や専門の支援団体だけではまだ気づけていない一軒一軒の課題も、地域を知る皆さまだからこそ拾い上げられることがあるはずです。

自ら選ぶことのできなかった被災によって、被災された方や地域の方々が、これ以上つらい思いをすることがあってはなりません。むしろこれを機に、住民同士の結びつきを一段と強くする契機とできればと考えています。ぜひ一緒に、この局面を乗り越えていきましょう。

【今、あらためて呼びかける理由】

発災から時間が経つにつれ、報道で取り上げられる機会は少しずつ減っていきます。しかし、被災地の復旧・復興が終わったわけではなく、今も困りごとを抱えながら過ごしている方が数多くいらっしゃいます。忘れられがちになるこの時期だからこそ、地域に根ざした皆さまの継続的な関わりが、これまで以上に大きな意味を持ちます。

【市民活動団体の皆さまにできること（例）】

- ・ サロン活動・足湯など、被災者の心をほぐす居場所づくり
 - ・ 食事支援・炊き出し、子ども食堂などのコミュニティ支援
 - ・ 高齢世帯・要配慮者への見守り・声かけ、孤立防止の訪問活動
 - ・ 罹災証明や支援制度に関する情報を、行政窓口に行けない方へ届ける広報・声かけ
 - ・ 地域のつながりを取り戻す交流イベントやお祭りの再開支援
 - ・ 日頃の活動を通じて把握している、まだ支援が届いていない世帯や困りごとの共有
- これらはあくまで一例です。皆さまの団体だからこそできる関わり方を、ぜひ考えていただきたいと思います。

【結び】

誰ひとり取り残さない復興のために、皆さまのお力を活かして何ができるか、ぜひ考え共に取り組みましょう。ご不明な点やご相談は、下記までお気軽にお問い合わせください。

【問い合わせ先】

災害支援ネットワークちば CVOAD 代表 加納基成
CVOAD 県庁事務所（災害対応専用）
080-2300-1364
chibasupportjimu0813@googlegroups.com